

令和2年度行政事業レビューシート (警察庁)									
事業名	警察署等道府県警察施設の整備			担当部局庁	長官官房				
事業開始年度	昭和29年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	会計課	作成責任者 会計課長 滝澤 幹滋			
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な条項も記載)	警察法第37条第3項 警察法施行令第3条第1項			関係する計画、通知等	-				
主要政策・施策	国土強靱化施策			主要経費	その他の事項経費				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	警察事務は、国家的性格と地方的性格を共に有することから、国として治安責任を応分に負担し、また、全国的治安の均質性を維持するとの考え方に基づき、各道府県の警察本部庁舎を始め、警察署庁舎、執行隊庁舎、交番・駐在所(沖縄県に限る。)といった第一線警察活動の拠点として機能している警察施設の整備に要する経費を補助しているもの。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	令和元年度においては、警察本部庁舎2施設、警察署34施設、交番2施設及び駐在所1施設、計39施設に対して、道府県警察施設の整備に要する経費を補助(10分の5)している。								
実施方法	補助								
予算額・執行額 (単位:百万円)		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度要求			
	予算の状況	当初予算	10,772	9,521	9,404	6,030	7,195		
		補正予算	-	▲163	-	-	-		
		前年度から繰越し	113	766	972	492	-		
		翌年度へ繰越し	▲766	▲972	▲492	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	10,119	9,152	9,884	6,522	7,195		
	執行額	10,117	9,098	9,877	-	-			
	執行率(%)	100%	99%	100%	-	-			
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	94%	97%	105%	-	-			
令和2・3年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	2年度当初予算	3年度要求	主な増減理由					
	補助金(警察署整備)	5,565	7,152	警察署整備については、整備箇所数増加に伴う増 警察本部整備については、整備箇所数減少に伴う減 交番・駐在所整備数については、駐在所整備箇所数の減少に伴う減					
	補助金(警察本部整備)	398	0						
	補助金(交番・駐在所整備)	67	43						
	計	6,030	7,195						
定量的な成果目標の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由	定性的な成果目標と平成29～令和元年度の達成状況・実績							
	定量的な目標が設定できない理由及び定性的な成果目標	<p>都道府県警察施設整備事業については、各道府県警察において、治安情勢、施設の経過年数、施設の狭益度、施設の活用状況、事業の内容(改修、建て替え、耐震化事業等)、他の施設の事業の進捗状況等の様々な事業を勘案し、予算の範囲内で各年度ごとに必要となる事業を実施しているものであるため。</p> <p>【定性的な成果目標】 都道府県警察施設の整備に当たり必要な補助を行う。 (施設整備に関しては、1事業が終了するまでに複数年かかるため、代替指標として当該年度に完成した施設数を記載し、活動指標として当該年度に着手した施設数を記載)</p> <p>【29～元年度の達成状況・実績】 都道府県警察施設の整備に際して、必要な補助を実施してきた。</p>							
事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標年度	目標最終年度
	警察本部、警察署等の整備	当該年度に完成した警察施設の整備数	実績	施設	19	21	16	-	-
			目標値	-	-	-	-	-	
			達成度	%	-	-	-	-	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度活動見込	3年度活動見込
	当該年度に新たに施設整備に着手した警察施設	活動実績	施設	21	6	15	-	-	
		当初見込み	施設	25	10	15	15	-	

単位当たり コスト	算出根拠		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度活動見込	
	執行額/施設数	単位当たり コスト	千円	206,476	252,714	259,919	172,292	
		計算式	千円/施 設数		10,117,305/49	9,097,699/36	9,876,937/38	6,030,213/35
政策	1 市民生活の安全と平穩の確保							
施策	1 総合的な犯罪抑止対策の推進							
測定 指標	定量的指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 - 年度	目標年度 2 年度
	地域住民等の安全を脅かしている犯罪の認知件数(重要犯罪(注)) (注) 殺人、強盗、強制性交等、強制わいせつ、放火、略取誘拐及び人身売買	実績値	件	10,866	10,460	10,000	-	-
		目標値	件	13,309	12,590	11,761	-	10,989
	定量的指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 - 年度	目標年度 2 年度
	地域住民等の安全を脅かしている犯罪の認知件数(重要犯罪(注)) (注) 殺人、強盗、強制性交等、強制わいせつ、放火、略取誘拐及び人身売買	実績値	件	50,537	43,901	41,527	-	-
		目標値	件	67,754	61,511	55,124	-	50,402
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
治安維持の拠点となる警察署や交番等の警察施設について復旧することにより、地域住民の安全を脅かしている犯罪の抑止につながる。								
政策	I. 市民生活の安全と平穩の確保							
施策	2. 地域警察官による街頭活動及び初動警察活動の強化							
測定 指標	定量的指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 - 年度	目標年度 2 年度
	刑法犯及び特別法犯の総検挙人員に占める地域警察官による検挙人員の割合	実績値	%	71.1	69.6	67.2	-	-
		目標値	%	72.6	74.1	72.6	-	71
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
治安維持の拠点となる警察署や交番等の警察施設について復旧することにより、地域警察官による街頭活動及び初動警察活動の強化につながる。								
政策	I. 市民生活の安全と平穩の確保							
施策	3. 悪質商法等の防止及び環境破壊等の防止							
測定 指標	定量的指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 - 年度	目標年度 2 年度
	悪質商法等(注)の検挙事件数 (注)利殖勧誘事犯、特定商取引等事犯及びヤミ金融事犯 ※数値については暦年	実績値	事件	950	879	812	-	-
		目標値	事件	683	690	756	-	792
	定量的指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 - 年度	目標年度 2 年度
	悪質商法等(注)の検挙人員 (注)利殖勧誘事犯、特定商取引等事犯及びヤミ金融事犯 ※数値については暦年	実績値	人	1,270	1,164	1,130	-	-
		目標値	人	1,013	1,100	1,107	-	1,110
定量的指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 - 年度	目標年度 2 年度	
産業廃棄物事案の検挙事件数 ※数値については暦年	実績値	事件	744	747	706	-	-	
	目標値	事件	790	809	774	-	747	

定量的指標	実績値	単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標	目標年度
						- 年度	2 年度
産業廃棄物事犯の検挙人員 ※数値については暦年	実績値	人	1,107	1,087	1,025	-	-
	目標値	人	1,213	1,235	1,171	-	1,119
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係							
治安維持の拠点となる警察署や交番等の警察施設について復旧することにより良好な経済活動の確保及び環境破壊等の防止につながる。							
政策	II. 犯罪捜査の的確な推進						
施策	1. 重要犯罪・重要窃盗犯の検挙向上						
定量的指標	実績値	単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標	目標年度
						- 年度	2 年度
重要犯罪(注1)の検挙率(注2) (注1) 殺人、強盗、放火、強制性交等、略取誘拐・人身 売買及び強制わいせつ (注2) 右記の数値は、未遂罪及び予備罪を含む。	実績値	%	82	83.3	86	-	-
	目標値	%	69.6	73.2	77	-	80.2
定量的指標	実績値	単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標	目標年度
						- 年度	2 年度
重要窃盗犯(注1)の検挙率(注2) (注1) 侵入窃盗、自動車盗、ひったくり及びすり (注2) 右記の数値は、未遂罪を含む。	実績値	%	56	62.5	60	-	-
	目標値	%	51.4	52.9	55.5	-	57.4
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係							
治安維持の拠点となる警察署や交番等の警察施設について復旧することにより、重要犯罪・重要窃盗犯の検挙につながる。							
政策	II. 犯罪捜査の的確な推進						
施策	2. 政治・行政・経済の構造的不正の追及の強化						
定量的指標	実績値	単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標	目標年度
						- 年度	2 年度
政治・行政をめぐる構造的不正事案の検挙状況 ※30年度から統計を一部変更している。	実績値	事件	44	51	45	-	-
	目標値	事件	38	41	44	-	42
定量的指標	実績値	単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標	目標年度
						- 年度	2 年度
経済的不正事案の検挙状況 ※30年度から統計を一部変更している。	実績値	事件	77	84	60	-	-
	目標値	事件	48	67	70	-	71
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係							
治安維持の拠点となる警察署や交番等の警察施設を復旧することにより、政治・行政をめぐる構造的不正事案の検挙及び経済的不正事案の検挙につながる。 なお、警察庁の政策評価における2-3、2-4、2-5、3-1、3-2、4-1、4-2、4-3、5-1、5-2、5-3、6-1及び7-1についても関連する。							

事業所管部局による点検・改善

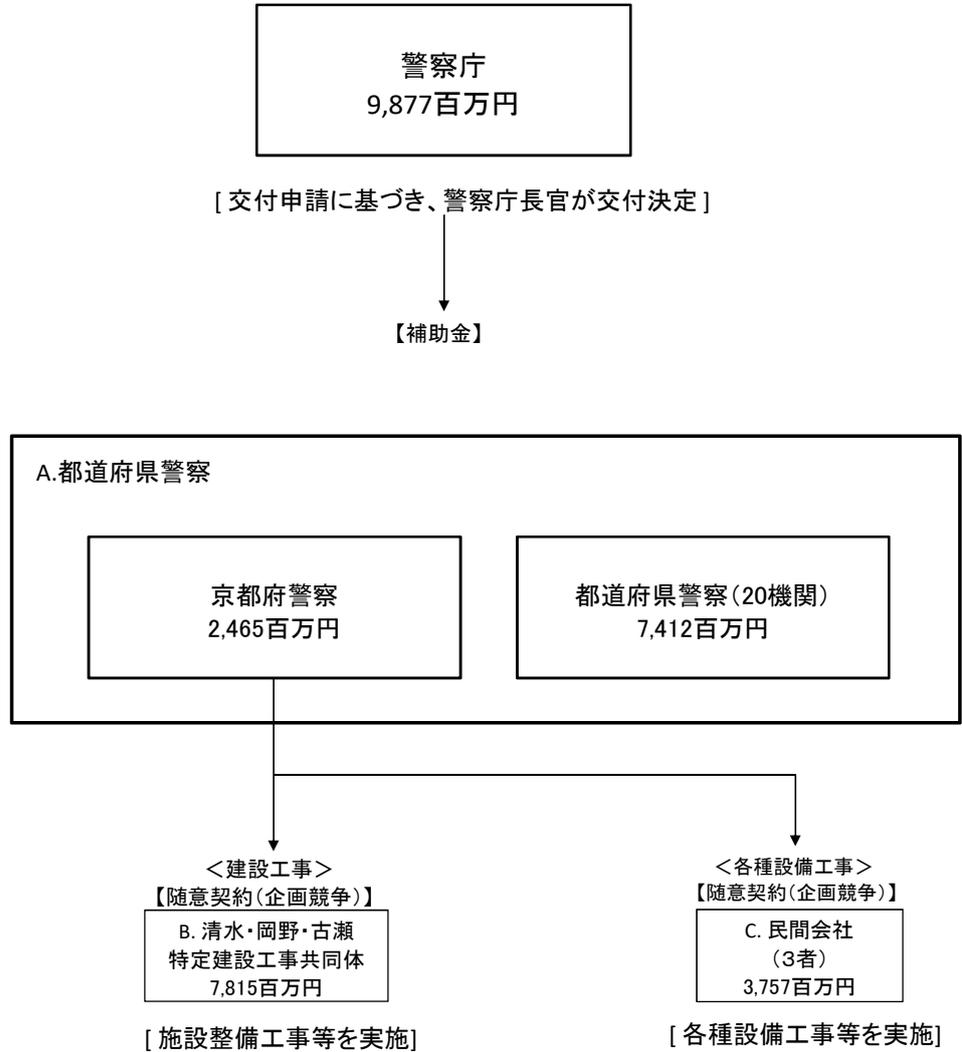
項目		評価	評価に関する説明
国費 要 投 入 の 必 要	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	警察活動の基盤施設の整備事業であり、安心・安全な社会の実現という観点から国民のニーズは高い。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	警察法及び警察法施行令の規定により、国がその一部を補助することとされている。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	安心・安全な社会を実現する上で、第一線警察活動の拠点となる施設を整備することは必要不可欠であり、その優先度は高い。
事業 の 効 率 性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	広く入札参加者を募る等により、一者応札の解消を図る等、競争性の確保を努めており妥当である。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	警察法及び警察法施行令の規定に基づき、都道府県警察に要する経費の応分の負担を行っている。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	契約に際しては一般競争入札を促進することとしており、コストの水準は妥当なものである。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	都道府県警察施設の整備に要するものに限定されている。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	繰越額は全額、本事業を適正に実施するに当たり必要となるため妥当である。	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	情勢に応じて補助金単価等の見直しを検討するなどしてコスト削減を図っている。	
事業 の 有 効 性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	-	-
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	-
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	概ね見込みどおりの活動実績を上げている。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	整備された施設は、都道府県警察において十分に活用されている。
関 連 事 業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-
	所管府省名	事業番号	事業名
点 検 ・ 改 善 結 果	点検結果	補助金等に係る予算の適正化に関する法律に基づき、年度終了後に実績報告を受け、当該年度における執行状況を確認している。 また、毎年度、警察庁、管区警察局において、全部局を対象に、会計監査を計画的に実施していることに加え、各都道府県警察においても内部監査を計画的に実施し、支出内容を確認している。	
	改善の方向性	警察本部、警察署等の警察施設については、一般の事務庁舎と異なり、第一線の警察活動の拠点となるだけでなく、災害発生時には、応援部隊の受入れ等にも活用されるものであるが、全国的に老朽化が進んでいる状況にあり、継続した事業の実施が不可欠である。 各施設に対する補助金の算定に当たっては、管区警察局を通じてヒアリングを実施するなどして内容の精査を行っているほか、毎年度、算定単価の見直しに努めているところであり、引き続き実施することとしている。	
外部有識者の所見			
引き続き、補助金の算定に当たっては都道府県警察の実態に合わせて内容を見直すなど適切かつ効率的な執行に努めること。			
行政事業レビュー推進チームの所見			
り通状現	引き続き、適切かつ効率的な事業実施に努めること。		
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況			
り通状現	毎年度、算定単価の見直し等に努めているところであり、引き続き、適切かつ効率的な事業実施に努める。 また、令和3年度概算要求については、事業の内容を精査した上で要求を行っている。		
備考			

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度 当初20	平成23年度 71	平成24年度 56	平成25年度 26
平成26年度 27	平成27年度 24	平成28年度 23	平成29年度 23
平成30年度 21			
平成31年度	警察庁 (0024)		

※令和元年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているかについて
補足する)
(単位: 百万円)



費目・使途
(「資金の流れ」に
おいてブロックご
とに最大の金額
が支出されている
者について記載
する。費目と使途
の双方で実情が
分かるように記
載)

A. 京都府警察			B. 清水・岡野・古瀬特定建設工事共同体		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
補助金	警察本部の施設整備に要する経費	2,465	施設費	京都府警察本部新庁舎建築工事	7,815
計		2,465	計		7,815
C. 三和・明和・ウチラ特定工事共同体			D.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
施設費	京都府警察本部新庁舎建築工事(機械設備)	1,875			
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	京都府警察	2000020260002	補助金交付	2,465	補助金等交付	-	-	
2	岡山県警察	4000020330001	補助金交付	1,516	補助金等交付	-	-	
3	警視庁	8000020130001	補助金交付	1,180	補助金等交付	-	-	
4	愛知県警察	1000020230006	補助金交付	1,128	補助金等交付	-	-	
5	長崎県警察	4000020420000	補助金交付	538	補助金等交付	-	-	
6	埼玉県警察	1000020110001	補助金交付	523	補助金等交付	-	-	
7	沖縄県警察	1000020470007	補助金交付	363	補助金等交付	-	-	
8	北海道警察	7000020010006	補助金交付	321	補助金等交付	-	-	
9	福井県警察	4000020180009	補助金交付	317	補助金等交付	-	-	
10	神奈川県警察	1000020140007	補助金交付	296	補助金等交付	-	-	

B

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	清水・岡野・古瀬特定建設工事共同体	1010401013565	京都府警察本部新庁舎建築工事	7,815	随意契約 (企画競争)	5	-	

C

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	三和・明和・ウチラ特定工事共同体	3130001020980	京都府警察本部新庁舎建築工事(機械設備)	1,875	随意契約 (企画競争)	3	-	
2	豊原・正光・中島電工特定工事共同体	3130001011294	京都府警察本部新庁舎建築工事(電気設備)	1,765	随意契約 (企画競争)	5	-	
3	フジテック株式会社	3160001009212	京都府警察本部新庁舎建築工事(昇降機設備)	117	随意契約 (企画競争)	2	-	